

総評 福岡県公立高校入試問題(2026年3月10日実施)

昨年(2025)と比べると、国語が易しめ、数学と理科は昨年並み、英語と社会はやや難化している。5教科トータルの全体平均点は例年並みに収まりそう。ただ、今年は公立高校の定員割れも多く、また、特色化選抜・推薦入試の合格内定者も受検していないため、公立高校入試の平均点が実質上あまり意味を持たなくなっていると言えよう。なお、県教委による5科全体の予想平均点は166.7点、教科別では国語35.5点、数学31.7点、社会33.2点、理科33.4点、英語32.9点となっている。

各教科分析と次年度以降のアドバイス

|    | 2026年(令和8年)3月 公立入試問題分析  | 次年度以降の対策   |
|----|---|--|
| 国語 | <p>今年は、大問1・2の論説文・物語文、そして大問4の作文が昨年より取り組みやすく、文章の理解や記述の負担は軽くなっていました。大問3の古典は例年通りの難易度で、基本的な知識と読解力が求められる構成でした。</p> <p>記述問題では、本文のどこを参照して答えるかが明確であり、当塾で行ってきた記述対策をしっかり行っていれば、十分に対応できる内容だったといえます。</p> <p>変更点としては、文法・漢字の知識を問う問題が大問1から大問2に移動しましたが、内容自体は特に驚くべき変化ではありません。</p> <p>一方、例年よりやや難しい問題もありました。「豊かになる」の「なる」と同じ意味の語を選ぶ問題では、言葉の意味を正確に理解していることに加え、思考力が問われる内容でした。</p> <p>大問1 論説文<br/>今年の論説文は、文章を読んで心が動くとき、人はどのような過程をたどっているのかを説明したものでした。物語を読む際に、読者が物語の世界に入り込むための鍵となる要素について述べられています。</p> | <p>大問1のアドバイス<br/>今年の論説文は、「読書」という身近なテーマであり、本文の内容も比較的理解しやすいものでした。しかし、内容が理解しやすい文章であっても、筆者の主張や説明の流れを正確に読み取る力が重要です。特に説明文では、「筆者が何を説明しようとしているのか」と「その理由や具体例は何か」を整理しながら読むことが重要です。普段から段落ごとの要点をまとめたり、筆者の主張を自分の言葉で説明したりする練習をしておく、記述問題にも対応しやすくなります。</p> <p>また、本文から言葉を抜き出す問題では、設問で問われている内容と本文の表現を正確に対応させる力が求められます。設問のキーワードに注目しながら本文を読み直す習慣をつけておくとよいでしょう。</p> <p>大問2のアドバイス<br/>物語文では、登場人物の気持ちの変化を読み取る力が重要になります。特に今回のような問題では、「出来事」と「それによって生まれた感情」の関係を整理しながら読むことがポイントです。</p> <p>文章を読む際には、<br/>「どんな出来事が起きたのか」<br/>「そのとき登場人物はどう感じたのか」</p> |

設問では、記述問題が4問出題されました。そのうち3問は本文からの抜き出し問題で、残り1問は10字以上15字以内で答える記述問題でした。

昨年は25字以上30字以内、15字以上20字以内といった長めの記述問題が出題されていたため、それと比べると今年は記述の負担が大きく減った構成となっています。

また、テーマが「読書」という身近な内容だったことに加え、抽象的な言葉も比較的少なく、本文の内容は理解しやすい文章でした。

#### 大問2 物語文

今年の物語文は、カメラマンの父親をもつ主人公が、運動会の写真撮影を通して父親の仕事について考える物語でした。忙しい父親の代わりに運動会の写真を撮ることになった主人公は、カメラマンの仕事の大変さを実感し、父親への感謝の気持ちを抱くようになります。しかし、その気持ちを直接伝えることにはまだ恥ずかしさを感じている、という心情が描かれています。

設問では、登場人物の心情を読み取る問題が中心となっており、記述問題は3問出題されました。1問は昨年より字数が増えていましたが、文章の内容が理解しやすく、書きやすい問題でした。

全体としてストーリーは複雑ではなく、登場人物の心情も読み取りやすい内容だったといえます。

#### 大問3 古文(漢文の書き下し文)

今年の古文は、韓非子を題材とした文章でした。問題は、漢文の書き下し文とその現代語訳が示されており、それらを参考に内容を読み取る形式となっていました。

設問では、例年と同様に現代仮名遣いを問う問題や、内容理解を問う問題が出題されました。

一方で、返り点に関する問題の形式には変化が見られました。これまでは返り点を書き入れる問題が出題されていましたが、今年は訓読文を参考にして書き下し文に直す問題に変更されました。

また、記述問題の数や字数は例年と大きく変わらず、会話の場面や現代語訳、注釈を手がかりにして、物語の内容を正確に読み取ることが求められ

を意識して整理すると、心情を問う問題に対応しやすくなります。

また、記述問題では「なぜそのような気持ちになったのか」という理由を本文の内容をもとにまとめる力が求められます。普段から物語文を読むときに、登場人物の気持ちの変化を自分の言葉で説明する練習をしておくといえでしょう。

#### 大問3のアドバイス

古文の問題では、すべてを自力で読み取ろうとするのではなく、現代語訳や注釈などの補助情報を活用することが重要です。今回の問題でも、会話の場面や現代語訳を手がかりにすることで、文章の内容を理解しやすくなっていました。

また、返り点や書き下し文の問題は、基本的な文の形を理解していれば対応できることが多い分野です。授業や問題演習の中で、基本的な訓読の形に慣れておくことが大切です。

さらに、内容理解の問題では、文章の流れをつかみながら登場人物の発言や行動の意味を整理して読む力が求められます。普段の学習でも、現代語訳を参考にしながら内容を確認する習慣をつけておくといえでしょう。

#### 大問4のアドバイス

作文では、まず問題文に示されている条件を正確に読み取ることが重要です。今回の問題では、AさんとBさんのやり取りを踏まえて改善点を考える必要があり、与えられた資料や会話の内容をもとに意見をまとめる力が求められました。

また、第二段落では自分の考えを書くことが求められているため、単に意見を述べるだけでなく、その理由や具体例を示すことが大切です。普段の学習でも、「自分の考え → その理由」という形で文章を書く練習をしておく、入試の作文にも対応しやすくなります。

さらに、資料や会話の内容を踏まえたうえで自分の考えをまとめる練習をしておく、今回のような資料型の作文にも対応しやすくなるでしょう。

る問題でした。

#### 大問4 作文

今年の作文は、言葉を用いたコミュニケーションにおいて誤解が生じることをテーマとした問題でした。AさんとBさんの会話の事例が示され、実際にコミュニケーションの中で誤解が生じている場面が提示されていました。また、関連するグラフも示されていましたが、内容は比較的読み取りやすいものでした。

設問では、まずAさんとBさんのやり取りを踏まえ、両者またはいずれかの改善点を挙げるのが求められていました。論点が明確に示されているため、考える方向性はつかみやすい問題だったといえます。

さらに第二段落では、言葉を用いたコミュニケーションをより良くしていくために、自分が大切だと考えることを書くことが求められていました。以前にもコミュニケーションをテーマとした作文が出題されており、受験生にとって比較的取り組みやすい内容だったと考えられます。

数学

大問数は6題で構成も例年通り。大問2はデータの活用から確率の問題に、大問3は複数単元の融合問題から方程式の利用になった。今年は円周角に関する問題は出題されず。

大問1 計算・小問集合

計算から方程式、データの活用、標本調査など9問。関数のグラフをかく問題は毎年(今年は放物線)出題されている。標本調査は今年も出題。求めるものを正確に把握し計算していく必要がある。データや標本調査に関する問題が大問1で3問出題されていたのは初めて。ただし基本的な問題なので確実に全問正解したいところだ。

大問2 確率

(1)は確率の正誤問題。正しいものをすべて選択する形式なので、条件を一つひとつ丁寧に読み取ることが大切。(2)は確率を用いた記述形式。箱の中のカードの取り出し方に加え、それによって石が白の面になるのか黒の面になるのかまで考える必要があり複雑な内容だった。題意をいかに素早く正確にとらえ処理するかがポイントであった。ここに時間をかけすぎて、後半で時間が足りなくなった生徒もいたのではないかな。

大問3 方程式の利用

(1)はxがなにを表しているのかを把握し、図形に書き込むことでイメージしやすくなる。(2)は別の長さをxとしていることに注意。また(長方形の周の長さ) $\div 2$ をすることで縦と横の長さの和が求められることも理解しておかないと先に進めない。(3)は2次方程式の利用。直方体の体積についての方程式を立て、出した解をたしかめるというもの。立式から計算まで難易度は高くはない。この大問は(1)(2)が解けなくても(3)にチャレンジできる。問題ごとのつながりを確認し、解けるとこから取り組むことが得点につながる。

大問4 関数の利用(速さ)

毎年出題されている関数の利用。今年も1次関数のみで昨年に引き続き速さに関するものだった。(1)は時間と道のりの関係からグラフが通る座標をすべて選択する問題。(2)はおなじみの2点を通る直線の式を求める問題。(3)はAさんの兄のグラフを書き足すことでイメージしやすい。2つの

◆大問1の計算・小問題を確実に

大問1は計算・小問題が9問、あらゆる単元から基礎問題が出題されます。計算以外にも統計や資料データに関する問題も近年出題数が増えています。用語の意味や求め方をきちんと理解しておけば難しくありません。ここは確実に得点源にしたいところです。計算ミスが多い人は、クセを早めに直していくところから。間違いをそのままにせずきちんと追求していくようにしましょう。同じミスを繰り返さないように、普段から意識を持って取り組んでいくことが大切です。途中式をきちんと書き、解き終わったらそれを「見直す」ことを心掛けてみてください。

◆データや資料の活用・統計に関する問題について

年々、確率統計や資料データを扱った問題が増えてきています。福岡県の入試では大問まるごと出題される傾向にありますので、時間をかけて復習しておきたいところです。知識的なところが大きいので、まずは用語の理解と資料や図の正確な読み取りを確実に身につけていきましょう。さらに毎年記述形式で説明する問題も出題されていますので、過去問などを使って出題傾向をつかみ、解答法を練習していくことが高得点のポイントの1つです。

◆関数の利用を得点源にしたい

数学が得意な人・基礎が確実に身につけてきた人は、この「関数の利用」に早めに取り掛かっていきましょう。問題文章が長く情報量も多いので、短時間に正確に読み取る力が必要です。扱われる数値も小数や分数、桁数の多い整数ばかりで、より正確な計算力も求められます。ここができるようになれば、数学の点数が一気にアップしていきます！

◆図形問題の攻略が上位校突破へのカギ

後半の大問5と大問6の図形問題は小問によって難易度に大きな差があります。後半になるほど難易度が高くなりますが、上位校を目指していく場合はこの図形問題にも力を入れていかなければいけません。応用問題といわれる多くは、複数の基礎・基本を集めた問題になっていますので、まずはそれを完璧におさえていくことが前提条件であり、やはり中3夏以降の練習量が決め手になっていきます。1つの問題に対して複数のアプローチができるようになれば、正解までたどり着く確率がぐっとあがります。そのためにも多くの問題に取り組み経験値を上

直線の式を求め、その式を連立方程式として解くことで交点を求めていく。最後に求めた解を何分何秒に変換するところまで、丁寧に処理したい。

#### 大問5 平面図形

(1)は図形に関する知識について記号で選ぶ問題。角の二等分線の性質をおさえておくことで正解できる。(2)は図形の中で等しい辺や角を確認しながら、三角形のどの合同条件にあてはまるかを答えるもの。こども確実に正解したい。(3)は三角形の相似の証明。 $\bigcirc$ と $\triangle$ が等しい $\rightarrow$  $\triangle$ と $\square$ が等しい $\rightarrow$ だから $\bigcirc$ と $\square$ が等しいといったような、間接的な説明で1組の角が等しいことを述べる必要がある。過去問などで同じような証明を練習していた生徒にとっては解きやすかった。(4)は三角形の面積比。 $\triangle ABD \sim \triangle EFD$ に注目し、そこから隣り合う高さが等しい三角形の面積を確認していくことで解くことができる。例年の平面図形の最後の問題と比べると、取り組みやすい問題であった。

#### 大問6 空間図形

(1)は四角柱のねじれの位置。(2)はAPの長さをxcmとおき、方程式を立てて解いていく問題。図2に示されている立体が四角柱であること、また底面が台形であることに注目することで方程式を立てることができる。(3)は最短距離に関する内容であるため、まず展開図をかいて考えたい。そこから相似に着目して線分BDの長さを求め、さらに三平方の定理を利用することで解答につながる。この(3)も例年と比べると取り組みやすかった。

大問別に見ると、1は例年通り、2はやや難化、3～6は易化した印象である。全体としては、昨年よりも平均点は上がる見込み。ただし、記号問題では「正しいものをすべて選ぶ」形式が多く、この部分で正答率はやや下がると考えられる。今年の平均点は32～34点台と予想。

げていくことがポイントです。

#### 【中1中2生へアドバイス】

①数学は何といてもまずは正確な計算力です。分数計算や桁数の多い計算、また中3で習う $\sqrt{\quad}$ (ルート)の計算も、素早く正確に解けるようにしていきましょう。

②そのときに習った用語の意味や公式を正確に覚えていきましょう。覚えたこともしばらく使わないと忘れてしまいますので、定期的に復習して確認していくようにしましょう。

③問題文章が長かったり、条件や手順が複雑だったりする問題も増えてきていますので、与えられた情報を早く正確に読み取る訓練が必要となります。アンダーラインを引いたり、図に書き込んだりと工夫してみてください。

④学校の教科書の「活用問題」や、塾のテキストの錬成問題にもチャレンジしてみてください。特に上位校を目指す生徒にとっては、応用力・思考力強化が必須です。時間をかけてじっくりと考え、深く追求するといった学習にぜひ取り組んでみてください。数学は考えた分だけきつと力になっていきます。

|           |   |  |
|-----------|---|--|
| <p>社会</p> | <p>大問構成は例年と変わらず、歴史・地理・公民とバランスよく出題、大問1と2が歴史(20点)、大問3と4が地理(20点)、大問5が公民(14点)、大問6が公民の資料問題(6点)であった。全体としては、難易度の高い記述形式の出題が多く、模範解答どおりの答えを書くのはハードルが高く、部分点をどこまで認めるかで自己採点との開きが大きくなりそうな印象。特に例年と比較して「歴史」の難易度がかなり高くなったこと、また、小問ごとの配点を見ていくと、複数の答えが全て合っていないと正解にならない箇所(全解・両解)が多く、点数を積み上げにくい。地理は、世界地理にやや難しい良問が並んだが、これは例年どおり。公民は比較的解きやすかった。総じて、昨年に続き、社会科は難化傾向にあり、県平均は下がると予想する。</p> <p>過去に出題された問題と同じような出題もあるため、県入試の過去問への取り組みは必須だが、それだけでは太刀打ちできない。重要用語の暗記だけでは答えを出せない問題が大半を占め、また、答えをイメージできたとしても、指定語句を使って短文でまとめる能力も要求されている。まずは基本事項や用語をきちんと理解して暗記することは必要だが、それだけでは高得点を狙えない、今年の社会科はかなり差が開きそうな入試となった。実際に受験を終えて、そのまま塾に来た生徒からも「社会が難しかった」という声が多かった。</p> <p><b>大問1 歴史(古代から近代まで)</b><br/>時代別の事象を表にまとめた定番のスタイル。ただ、例年と比べてかなり難しい。問1と問4は平易だが、それ以外は全て難しく、特に問2(承久の乱後の地頭設置)と問5(株仲間の特権)の記述問題は、おそらく初見だった受験生が多かったはずだ。問3の記述問題(正長の土一揆)と問6の明治時代の出来事を並び替える問題も易しくはない。教科書の太文字で書かれた基本用語を覚えるだけでは対応できない。より深く理解していく必要がある。</p> <p><b>大問2 歴史(近現代)</b><br/>明治、大正、昭和(戦前)、そして戦後。明治期に関する出題が復活、問1の記述問題(地租改正)は</p> | <p>今年は難しくなりました。記述が書きにくくなり、簡単ではありませんでした。社会科は知識事項の暗記がベースとなりますが、一問一答の丸暗記だけでは入試で高得点は取れません。教科書内容を確実に理解し、定着していれば十分ですが、定期テストと入試では全く範囲が異なります。思考力、記述力も含めて、自分の能力全てを総動員するぐらいの感覚が必要です。自分の内に、深い知識をため込んでいく必要があります。</p> <p>地理・歴史・公民とバランスよく出題されます。今年は公民がさほど難しくありませんでしたが、例年であれば「公民が難しかった」という受験生の声も多く聞かれます。これには中3の6月頃まで中学校で「歴史」を勉強しており、公民の教科書に入るのが遅くなっているカリキュラム的な要因が挙げられます。中3の夏以降、受験勉強期間と重なってきますので、どうしても公民は勉強量が不足しがち。私たちの生活と直結する内容や時事テーマも多いので、日頃から世の中の動向に興味をもつように心がけましょう。</p> <p>また、授業中の先生の話をよく聞き、その先を想像することも勉強において大切なことです。今年も直前1ヶ月で使った授業プリントや県プレ、予想プレテスト、記述添削、予想模試、直前チェックの冊子からかなり多く出題されました。受験生のみんなは課題にきっちり取り組み、わからないところは教科書を調べたり、質問に来たりするなどして、疑問や不安を解決していきましょう。現中2のみんな！次はキミたちの出番です。</p> <p>◆歴史 まずは「人物」と「用語(教科書の太文字)」を正確に理解して書けるように。さらにいえば、人に説明できるようになればカンペキです。次に、年代もセットにしていけるといいでしょう。自学ノートを活用して、まとめるのもオススメです。</p> <p>◆地理 日頃から資料やグラフに慣れ、分析する目を持つことを心がけましょう。また、教科書だけでなく、テレビやインターネット等の視覚情報も役立ちます。</p> <p>◆公民 世相を反映した出題が増えています。ニュースを見たり、新聞を読んだりして、自分なりの意見を持つことを意識しましょう。大人になる準備として公民の学習はとても大切です。政治や経済は、知れば知るほど面白い世界です。</p> |
|-----------|---|--|

「現金」という言葉を用いたかどうか。問2の記述問題(大正デモクラシー・民本主義)は書けたはず。問3の記述問題(世界恐慌とアメリカへの生糸輸出減少)は、直前に実施したプレテストと同じ問題、問4は平易。

### 大問3 世界地理

点数の差がつく世界地理。資料のデータから判断する問2と問3が難しい。記号問題ではあるが、ここは見分けるための根拠や手掛かりがなかなか見つからなかったのではないか。問4の熱帯エリアの住居に関する記述は(㊸)が答えにくい。問5の記述問題は、日本の製造業がアジアへ進出している理由について。これは定番の出題で平易、書けたのではないか。

### 大問4 日本地理

資料を使った出題ばかりだが、さほど難しくはない。例年通りのレベル。ただ、問1の記述問題の(㊸)が書きにくい。問2は平易な記号問題。問3は地方ごとの農業の特徴をグラフから読みとる良問。こういった問題をきちんと解ける知識を身につけてほしい。問4と問5はともに記述問題だが、それほど難しくはなく、文の[ ]にきちんとあてはまるように書けたかどうか。塾生は、こういった記述問題の練習・添削を徹底して取り組んできた。大丈夫。

### 大問5 公民

地方自治、国政、経済をバランスよく出題。昨今の状況を反映してか、為替レートに関する問題も出題された。昨年に続き、全体的にはやや易しめ。問1は条例は平易だが、直接民主制を選べたかどうか。このあたりのセンスが大切。問2は衆議院の解散後の流れについて。問3は最高裁判所が「憲法の番人」と呼ばれることに関する記述問題。問4は景気と物価の関係性、問5が為替の問題、問6がクーリングオフに関する記述問題であった。

### 大問6 公民 国際社会に関する資料、記述

大問5から飛び出すような形で、大問6に公民の最後の单元(国際社会)から出題。問1の南北問題は平易。問2と問3は記述問題だが、きちんと資料を見てあてはまる文を作っていけばそれほど難しくはない。日本の国際貢献について。

|           |   |  |
|-----------|---|--|
| <p>理科</p> | <p>生物分野、化学分野、地学分野、物理分野から、それぞれ大問2題ずつの合計8問の構成。例年と変わらず、バランスよく出題。学年でいえば、1年生内容が2題、2年生内容が3題、3年生内容が3題と、こちらも偏りなく出題された。全体的な問題量に変化はないが、単に基本的な語句や内容を答えるのではなく、記述などを書く際に、必要な語句を問う問題が見られる。物理分野が難しく、完答問題も多かったため、平均点は昨年程度と思われる。</p> <p><b>大問1（生物分野）植物の分類に関する問題</b><br/> 基本的な内容を問う問題が多いが、問1はルーペを目に近づけたまま持つという内容を書く必要があることに注意。問2はスズメノカタビラの平行脈を丁寧に作図する必要がある。</p> <p><b>大問2（生物分野）自然界の炭素の循環に関する問題</b><br/> 問2は二酸化炭素を吸収するというはたらきから植物を表すものを判断。問3は草食動物と肉食動物の数量の増減に関してグラフを判断し、丁寧に考えて解くことが必要。</p> <p><b>大問3（化学分野）金属の酸化に関する問題</b><br/> 問1はガスバーナーを使用する際の手順に関する問題だが基本的な内容。問2のグラフは銅の質量と結びついた酸素の質量を打点に気をつけて書く。また、比例のグラフの特徴を説明する必要がある。</p> <p><b>大問4（化学分野）炭酸水素ナトリウムの熱分解に関する問題</b><br/> 問1の記述は基本的な内容。問2はフェノールフタレイン液のそれぞれの色の变化からアルカリ性の強さの違いに注目して書く問題。問3の(1)は化学式で書くことに注意。(2)は分解の化学変化を全て選ぶ問題だが基本的な内容。</p> <p><b>大問5（地学分野）月と金星の満ち欠けに関する問題</b><br/> 問1の記述は同じ日に見える月の位置の変化なので地球の自転について書く。問2は日がたつにつれて同じ時刻に見える月の位置が東へ移動していくことに注意。問3の(1)は観察できた金星の形から位置を答える問題。正確な理解が必要。</p> | <p>☆公立高校入試合格のための理科の勉強法</p> <p>①知識をしっかりと固める。<br/> ほとんどの問題が教科書内容から出題されます。隅々まで内容を理解しておく必要があります。また本年度の大問6の問2の鉱物の形や色を選ぶ問題のように細かい知識も問われるので、色付きの写真や図もきちんと確認しておくようにしましょう。</p> <p>②読解力＋記述力<br/> 対話形式の問題や誘導がある問題が多く出題されます。しっかりと問題文を読み、問題の意図を読み取り、正確、かつ簡潔に表現する力が必要となります。福岡県公立入試においては避けては通れません。すぐに身につく力ではないので日頃からしっかりとした答案作りを心掛けましょう。</p> <p>③正確な作図力＝注意力<br/> グラフをかく問題や作図する問題も出題されます。実験の測定値からグラフを書く問題では正確に値の打点を取るなど、きちんとルールに従う必要があります。また、作図は実際に自分で書かないとできるようにならないので、練習や解きなおしの際は解説を読むだけで終わらせないようにしましょう。</p> <p>④計算力<br/> 最近の傾向として、基本的で簡単な計算だけではなく、作図をした後でそれをもとに計算したり、計算結果をもとにグラフを作図したりするような問題が出ており、難易度が上がっています。計算は難しいからとあきらめず、しっかりと練習しておくことが大切です。</p> <p>⑤実験・観察の考察<br/> 出題の大部分が実験・観察に関する問題です。内容・目的・器具の名前と使い方、注意点などすべてが出題対象です。実験・観察をまとめたノートを作っておくと便利です。<br/> 理科では幅広く、深く学ぶことが必要です。日頃から取り組み、力をつけていきましょう。</p> <p>【中2生へ】<br/> 入試まであと1年、今すぐ始めましょう。まずは苦手分野</p> |
|-----------|---|--|

|  |  |
|--|--|
| <p>(2)の記述は基本的な内容。</p> <p><b>大問6 (地学分野)火成岩と鉱物、堆積岩に関する問題</b></p> <p>問1の記述は鉱物の色に注意して書く。問2は鉱物の色と形を細かく問う問題なのでやや難しい。問4の(1)は風によって広い範囲に運ばれることを書く。</p> <p><b>大問7 (物学分野)電熱線の熱量と水の温度変化に関する問題</b></p> <p>問1は回路図の作図に関する問題。電流計は回路に直列に、電圧計は回路に並列につなげることに気をつけて書く。問2の(1)の記述は易しい。(2)は発生した熱量の計算問題。公式をきちんと覚えておく必要がある。問3は水の温度上昇の結果をもとに電熱線の抵抗の大きさを求め、さらに電熱線を直列につないだときの水の上昇温度のグラフを書く問題で難しい。</p> <p><b>大問8 (物学分野)浮力に関する問題</b></p> <p>問1は作用・反作用の関係にある2力を選ぶことに注意。問2の(1)の記述は「水に入っている部分の体積」と書くことに注意したい。浮力の大きさの比を求める問題はグラフをきちんと読み取って解く。(2)の記述は指定語句が「上面」と「差」であるが、「下面」という語句も書いて答える必要がある。問3はグラフから物体Aの質量と、物体Dが水に浮いた状態で静止したということから浮力の大きさを求める。矢印の向きに注意。</p> <p>全体的に、求められるレベルが上がっていて、短気集中型の学習では高得点は望めない。知識や語句などの基本内容を早めに固め、練習を繰り返して応用力を強化しておきたい。</p> | <p>から。上位校では高得点が求められます。苦手分野の克服は絶対条件です。また丁寧さも必須です。雑な答案が一番ダメ。1問1問を丁寧に解いていく姿勢を大切にしましょう。</p> <p><b>【中1生へ】</b></p> <p>中1・中2内容から半分以上が出題されます。履修中の単元の理解度を深めることが大切です。浅い理解は役に立ちません。教科書をよく読み、わからない箇所は参考書などで調べる姿勢が大切です。</p> |
|--|--|

|           |   |   |
|-----------|---|---|
| <p>英語</p> | <p>リスニングは例年並みで筆記試験が難化した。戻ってきた受験生も難しかったという声が多く、平均点は下がるだろう。筆記は注釈なしの難語が一定数含まれ、意味が瞬時に取れないものや選びにくいものが多かった。新傾向としては、3の長文で、与えられた英文が本文中の4つの空欄のどこに入るかを問うもの(H26年まで2の対話長文に似た問題があった)と、自由英作文で、ある意見に賛成か反対かの立場で述べるという形式(今までは複数の案から選んで書くもの)が初めての出題。3の長文は工業高校に通う生徒の話で少し目新しい。問題全体を通して、場面や文脈を捉える力を身に付けて欲しいという意図を感じる問題だった。</p> <p>リスニング</p> <p>出題形式、難易度とも例年並み。表を使った問題、対話形式の問題、スピーチの問題のどれも過去問と大きく変わらないので、きちんと必要な情報を聞き取れば大丈夫。ただ問題4(1)は、本文で来月訪れるドイツが7か国目と言っているが、聞かれているのはこの授業以前に訪れた国の数なのでSix.が正解という引っ掛け。今の形と難易度がしばらく続いているが、そのうち難しくなる時が来るかもしれない。</p> <p>大問1 対話文の空欄補充</p> <p>2は会話の場面が分かりづらいうえに選択肢に仮定法が含まれているため難しい。I wish I could eat such a delicious meal here every day. = 「(願望)毎日ここでこんなおいしい食事が食べられたらいいのになあ。→(事実)もう帰国するので不可能」が正解で、If I had a good memory in Spain now, I would come here again. = 「(願望)スペインで今良い思い出があれば、またここに来るだろうに。→(事実)スペインでは今良い思い出が持てないので、再びここには来ないつもり(笑)」が誤りと分かっている受験生はどれほどいるのだろうか。</p> <p>3は校外学習に行く予定の子供の荷物を父親が点検する場面だが、一見2人の会話がかみ合わないように思われて手こずった受験生もいた。時間をかけず確実に取りたい問題だが、英語力がないと思わぬ失点やタイムロスの危険もある。</p> <p>大問2 対話文の長文読解</p> | <p>合格をつかむ5つの学習アドバイス</p> <p>① 単語と文法は「なんとなく」から「ルール」へ</p> <p>最近の入試には英検準2級程度の単語も多く含まれます。単語テストの丸暗記で終わらせず、発音や使い方(品詞)までセットで確認しましょう。leaveは「出発する」では使えません。「～から出発する」ならleave～、「～へ向けて出発する」ならleave for～という実際の使い方も押さえておく必要があります。</p> <p>文法も「なんとなく」を減らし、ルールに基づいて英文を読み書きする姿勢が確実に得点力になります。見えてくる英単語の順番に何となくそれっぽい日本語にするやり方など、あっという間に通用しなくなります。不定詞があれば「～すること」「～するための」「～するために」「～して」のどれか明確にして日本語にすること。英文を書く時にも、この文は現在進行形だからbe+～ingの形だとか、主語が複数で「先週」とあり過去だからwereを使うとか、一度立ち止まって情報とルールをきちんと確認する習慣をつけることも大切です。同じ単元の練習問題をやる時は、同じようなことを考えずに繰り返すだけになりがちですが、そういう時でも、面倒くさがらずに「これがこうだから、どうなる」などと一つ一つチェックポイントをおさえながら行いたいものです。</p> <p>② 自由英作文は「難しいことを、簡単な英語で」</p> <p>新形式の英作文でも、難しい単語を使って自滅する必要はありません。大切なのは「自分の知っている簡単な表現を使って、文法ミスのない英文をシンプルに書き上げる」ことです。少しずつ表現の幅を広げる努力は続けながら、いざ英文を書く時には、自分の英語力に見合った英文を使うよう心がけましょう。</p> <p>③ 目と耳を連動させた「シャドーイング」の習慣化</p> <p>リスニングや長文の速読力を上げるには、教科書のQRコード等の音声を活用するのが一番です。音声を聞きながら少し遅れて声に出す「シャドーイング」を繰り返すことで、英語を英語のまま処理するスピードが格段に上がります。</p> <p>④ 語学はスポーツ。毎日触れることが最強の対策</p> <p>英語はスポーツや楽器と同じで、単純な基礎練習の継続が最も重要です。短い時間でも毎日英語に触れる機会を作りましょう。ちくしんの「Revo-English」のように、ネイティブと実際に話して「生きた英語」を使う経験も、総合力を大きく底上げしてくれます。</p> |
|-----------|---|---|

英語の授業中にネパールからの留学生と質問をし合って互いの文化についての理解を深める内容。出題形式は例年通り。問1は数十年変わらない語句整序問題。5語中4語使う、絶対に文の途中部分(文頭に来るものを大文字にし忘れるという英語力と無関係な部分で失点させないようにという親切心)という約束事は不変。また福岡は異常に後置修飾(分詞、関係代名詞、接触節=名詞+主語・動詞~の形)を含む出題が多く、今回も2つのうちの1つが過去分詞による後置修飾だった。もう1つの間接疑問文も語句整序の定番だが、which を関係代名詞と間違えさせるようなことも想定した引っ掛け。

問2、問3は形式、難易度とも例年通り。もちろん本文の内容に合うものを選ぶのだが、結局は異文化理解について正しいことを書いているものが正解となっている。

大問3 エッセイ文の長文読解  
工業高校に通う少年が留学生ジョンやいとこのエマとの交流を通して自分の夢への思いを強くする内容。過去に日本のろ過機を東南アジアで使う話はあったが、理系の話題は珍しい。

問1の英問英答は基本的なレベル。What did he want to get there?という疑問文に対し、きちんと過去形で、また元にする本文中の代名詞のthem をcarsと置き換えて、He wanted to get skills to make cars.と答えられればOK。

問2が新傾向。与えられた文が入る本文中の空欄を答えるもので、話の流れをつかんでおけばそれほど難しくないが、この形式が続くならば、だんだん難しくなるだろう。この文中のimprove(向上させる)という動詞はここ数年繰り返し出てきている。必ず覚えておこう。

問3のthatの具体的な内容を日本語で書く問題は定番。本文中で答えとなる文を探し、それを正しく日本語に直すもの。ここでも過去分詞による後置修飾が含まれている。

問4は本文の内容に合う文を選ぶもの。きちんと本文の該当箇所と照合して違っている部分を探し、消去法で確実に正解を選べるようにしたい。

問5は英語の質問に6語以上で答える自由英作文。疑問文がwant+人+to~(人に~してほし

⑤ 文脈を読み取る力と、それを支える基礎  
今年の問題を再度振り返ってみると、細かい知識についての問題が少なく、英文の流れ=文脈を正しくつかむことによって答える問題の割合が増えていると言えます。これは大学入試共通テストなども含め近年の英語界全体の傾向とも言えます。ただ、勘違いしてはいけないのが、英単語や英文法の問題がなくなっているから、その勉強をしなくてよいということではなく、それはすでに当たり前のもので特に出題しないというだけで、英文の意味や文脈を正しく捉えるためには、そうした基本的な知識は絶対におろそかにしてはいけないということです。例えばスポーツの練習で、長く練習をするうちに、基本的なフォームやフットワークの使い方の指導はされなくなり、試合の組み立て方や戦術を磨くことに力を入れるようになるのと同じことです。

今年の大問3にprayという英単語が注釈なしで使われているのですが、prayの意味を即座に言える中3生は非常に少ないと思います。これはprayを知っておかないといけないのではなく、新年におせちを食べてlong livesとgood healthのためにprayするとあるので、話の流れやprayの後に続く言葉から、「願う・祈る」的な意味であることは類推できます。以前あった、英文中の難語の意味を推測して選ばせる問題は出題されなくなりましたが、今となっては、それは当たり前になったということでしょう。

出題される問題を練習することはもちろん必要ですが、そればかりすることは実は近道のように違っています。英語の学習の基本である、英単語、英文法、英作文、英文和訳、英文読解(細かく詳しく読むことも素早く読むことも両方)、リスニング、スピーキングの練習をバランスよく行うよう努めましょう。

い)を含む文だが、人の部分が a robot with AI technology(AI技術を備えたロボット)と長く分かりづらいため、I want it to～(ロボットに～してほしい)という文を書かないといけないのに、I want to～(自分が～したい)という文を書いた受験生もいた。ここは差がつく。

#### 大問 4 自由英作文

友人からのメールでペットボトルを使うのをやめるべきだという意見に対する考えを聞かれて、自分の考えを書くというもの。前述したように、何らかの意見に対して賛成か反対かを示して書く形式は初めての出題。ただ、I agree./I don't agree. で始めた後は、これまでとは大きく変わらず、自分の使える英語表現で決められた語数以上の英文を書ければよい。真剣に考えすぎて難しい内容になり自分を苦しめないよう、自分の英語レベルで書ける内容でまとめるのがコツ。普段から、どんなテーマでも使える便利な英文をストックしておきたい。